資料３

長崎県内の大腸がん検診の実績について

2026.1.14

長崎県保健医療対策協議会
がん対策部会大腸がん委員会

●実績データについて

厚生労働省（令和7年3月公表）
「令和5年度　地域保健・健康増進事業報告」より集計

プロセス指標	参照年度（最新）
受診率	令和5年度
要精検率 精検受診率 陽性反応適中度 がん発見率	令和4年度

※「地域保健・健康増進事業報告」は、地域（市区町村）で実施された事業報告のため、
職域で実施された検診（人間ドック含む）は含まない。

※集計年齢は、公表値に準じて「40～69歳」とする。
ただし、長崎県内では70歳以上の受診者数が多いため、一部参照データとして示す。

◆地域保健・健康増進事業報告の流れ

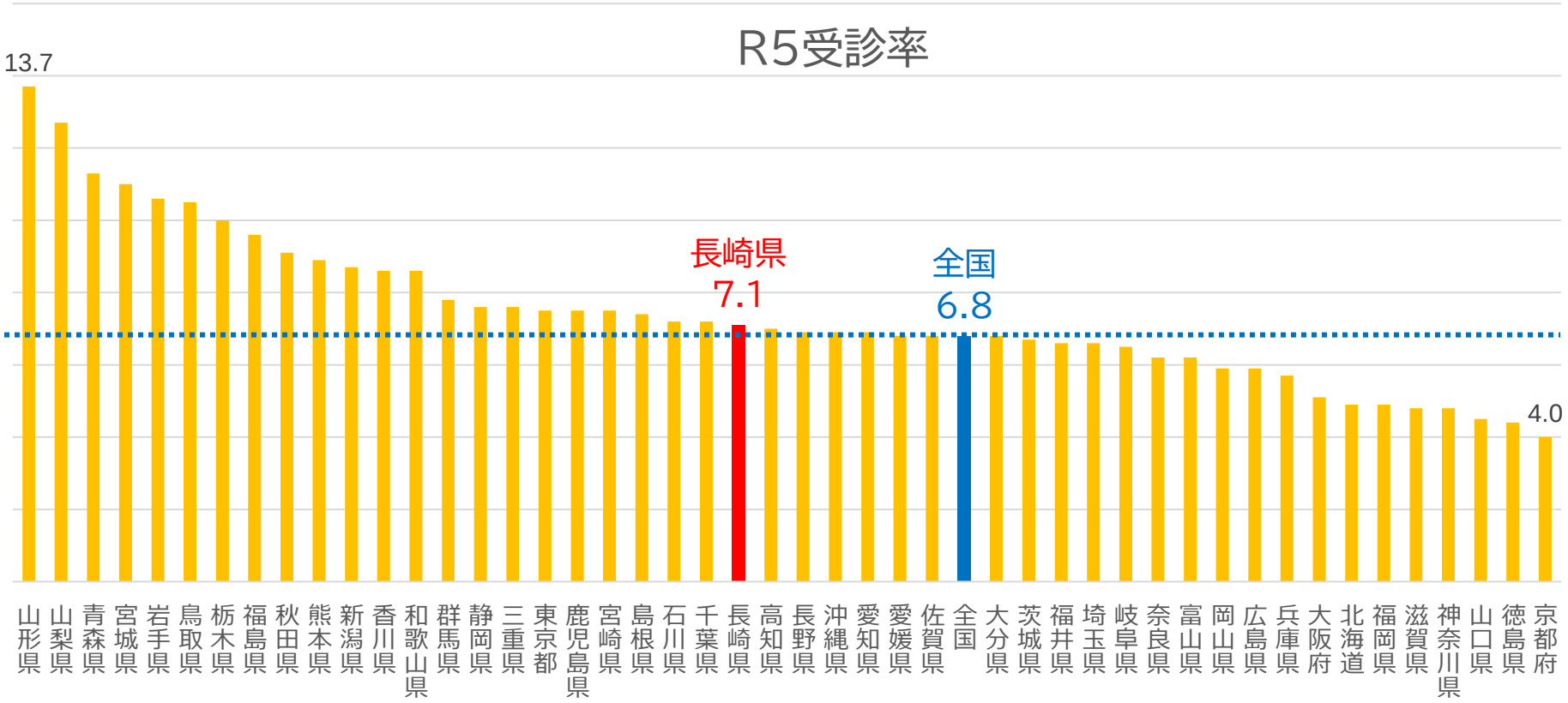
翌年度（6月末頃） ⇒ ⇒ ⇒ **翌々年度（6月末頃）**

検診実績報告　（精検結果の把握）　精検結果報告

1.大腸がん検診受診率の状況

1）全国順位

地域保健・健康増進事業報告（厚労省）公表値によると、
令和5年度（長崎県）は7.1%で、全国平均6.8%を上回り、全国23位。



2)受診率の年次推移(全国、長崎県)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
全国	19.2	13.8	8.8	8.4	8.1	8.0	6.5	7.0	6.9	6.8
長崎	18.3	16.2	7.7	7.7	7.6	7.5	6.2	7.1	7.2	7.1

算出年齢:　40～69歳
(～H24まで「40歳以上」)

対象者:　「就業者数」を除外しない

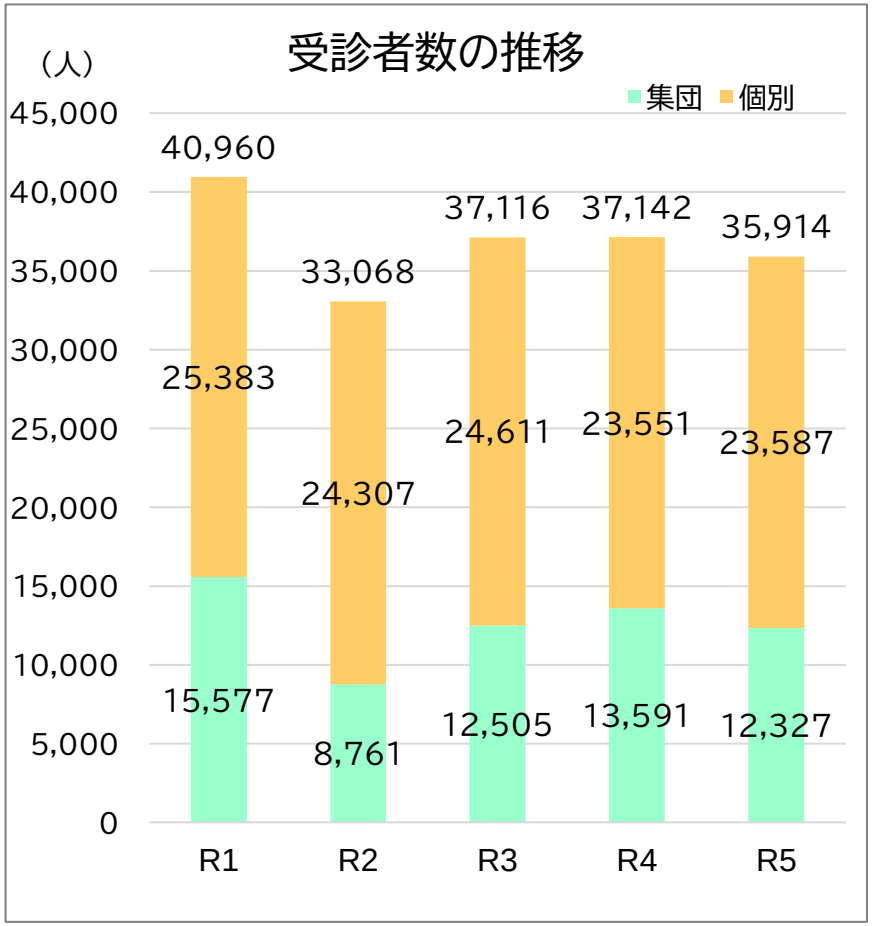
※算出年齢、対象者の計上方法が年度によって変更されているので、H27年度以前の経年的な比較はできない。

※受診率が比較可能なH28以降で比較すると、全国・長崎ともに年々低下している。R2に大きく減少し、R3以降はやや増加したものの横ばいで、R1までには回復していない。

2. 大腸がん検診受診者数と受診率　（40～69歳）

1）受診者数の推移

受診者数は年々減少している。個別検診が半数以上を占める。
R2年度に大きく減少（特に集団検診）し、R3・R4年度は増加したが、R5年度はやや減少している。



(40-69歳)		R1	R2	R3	R4	R5
集団	男	5,765	3,190	4,419	4,732	4,418
	女	9,812	5,571	8,086	8,859	7,909
	計	15,577	8,761	12,505	13,591	12,327
個別	男	9,115	8,663	8,803	8,405	8,343
	女	16,268	15,644	15,808	15,146	15,244
	計	25,383	24,307	24,611	23,551	23,587
合計	男	14,880	11,853	13,222	13,137	12,761
	女	26,080	21,215	23,894	24,005	23,153
	計	40,960	33,068	37,116	37,142	35,914

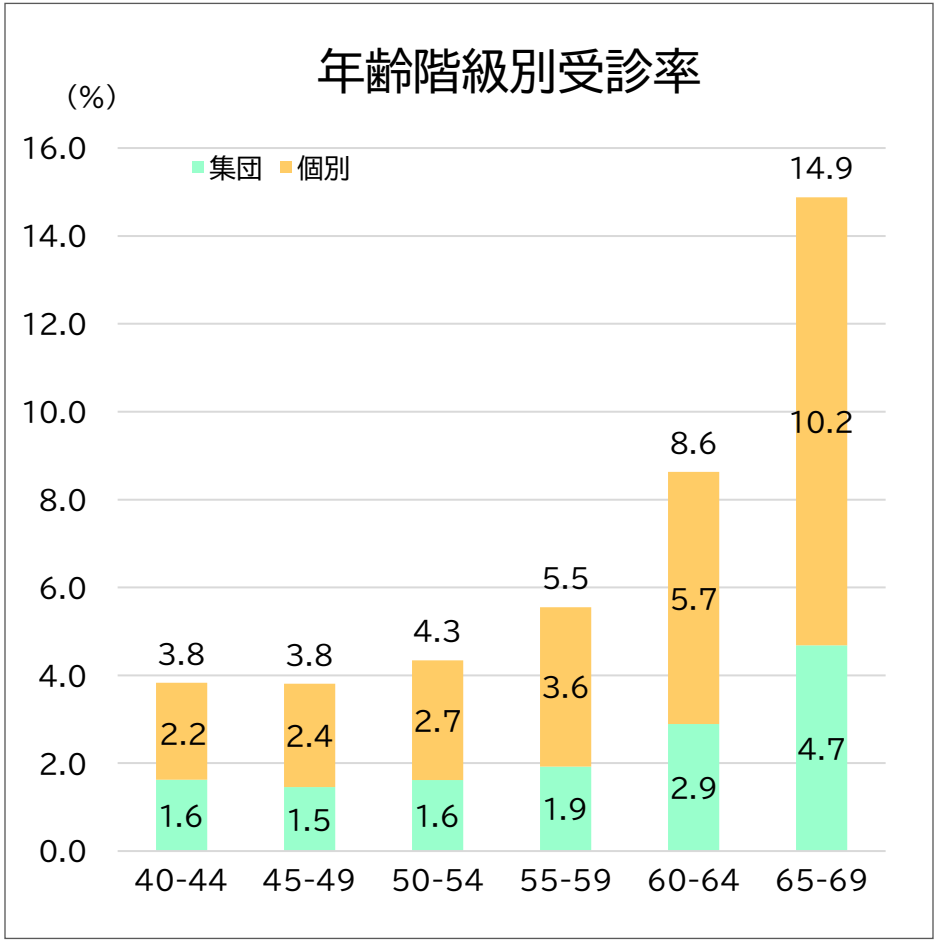
【参考】

全年齢	80,580	67,679	75,553	77,707	77,885

地域保健・健康増進報告（厚労省）

2）令和5年度年齢階級別受診率

受診率は、年齢階級が上がるにつれ、集団・個別ともに高くなる傾向がみられる。



年齢階級	区分	対象者数	受診者数	受診率
40-44	集団	72,815	1,181	1.6
	個別		1,611	2.2
	計		2,792	3.8
45-49	集団	82,694	1,204	1.5
	個別		1,948	2.4
	計		3,152	3.8
50-54	集団	86,826	1,402	1.6
	個別		2,369	2.7
	計		3,771	4.3
55-59	集団	81,503	1,569	1.9
	個別		2,954	3.6
	計		4,523	5.5
60-64	集団	87,451	2,526	2.9
	個別		5,020	5.7
	計		7,546	8.6
65-69	集団	94,951	4,445	4.7
	個別		9,685	10.2
	計		14,130	14.9

地域保健・健康増進報告（厚労省）

▶3.令和4年度大腸がん検診成績 （40～69歳）

1)令和4年度大腸がん検診成績

区分	性別	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診 あり C	精検受診率 C/B	精検受診 なし D	精検未受診率 D/B	精検受診 未把握 E	精検未把握率 E/B	精検結果別人数 異常なし F	がん G	早期がん H	粘膜内がん I	がん疑い及び未確定 J	腺腫のあった者 K	10mm以上 L	10mm未満 M	がん以外の疾患 N	陽性反応適中度 G/B	がん発見率 G/A	早期がん割合 H/G	粘膜内がん割合 I/G
集団	男	4,630	317	6.8	225	71.0	47	14.8	45	14.2	22	28	16	9	0	130	38	80	45	8.83	0.60	57.1	32.1
	女	8,506	412	4.8	328	79.6	47	11.4	37	9.0	110	11	3	0	3	125	23	93	79	2.67	0.13	27.3	0.0
	計	13,136	729	5.5	553	75.9	94	12.9	82	11.2	132	39	19	9	3	255	61	173	124	5.35	0.30	48.7	23.1
個別	男	8,457	824	9.7	580	70.4	131	15.9	113	13.7	120	26	14	6	9	313	67	212	112	3.16	0.31	53.8	23.1
	女	15,234	1,024	6.7	740	72.3	155	15.1	129	12.6	282	22	9	5	11	277	54	188	148	2.15	0.14	40.9	22.7
	計	23,691	1,848	7.8	1,320	71.4	286	15.5	242	13.1	402	48	23	11	20	590	121	400	260	2.60	0.20	47.9	22.9
合計	男	13,087	1,141	8.7	805	70.6	178	15.6	158	13.8	142	54	30	15	9	443	105	292	157	4.73	0.41	55.6	27.8
	女	23,740	1,436	6.0	1,068	74.4	202	14.1	166	11.6	392	33	12	5	14	402	77	281	227	2.30	0.14	36.4	15.2
	計	36,827	2,577	7.0	1,873	72.7	380	14.7	324	12.6	534	87	42	20	23	845	182	573	384	3.38	0.24	48.3	23.0

【参考】

70歳以上	男	16,911	2,113	12.5	1,568	74.2	323	15.3	222	10.5	280	98	45	28	17	892	147	640	281	4.64	0.58	45.9	28.6
	女	23,470	1,996	8.5	1,467	73.5	340	17.0	189	9.5	401	68	20	13	14	655	108	487	329	3.41	0.29	29.4	19.1
	計	40,381	4,109	10.2	3,035	73.9	663	16.1	411	10.0	681	166	65	41	31	1,547	255	1,127	610	4.04	0.41	39.2	24.7

＊70歳以上の受診者数では166人の大腸がんが発見されている。

地域保健・健康増進報告(厚労省)

2）令和4年度大腸がん検診成績（40～69歳）（初回受診者）（再掲）

区分	性別	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診 あり C	精検受診率 C/B	精検受診 なし D	精検未受診率 D/B	精検受診 未把握 E	精検未把握率 E/B	精検結果別人数 異常なし F	がん G	早期がん H	粘膜内がん I	がん疑い及び未確定 J	腺腫のあった者 K	10mm以上 L	10mm未満 M	がん以外の疾患 N	陽性反応適中度 G/B	がん発見率 G/A	早期がん割合 H/G	粘膜内がん割合 I/G
集団	男	1,538	135	8.8	92	68.1	16	11.9	27	20.0	7	16	8	4	0	57	22	28	12	11.85	1.04	50.0	25.0
	女	2,554	143	5.6	110	76.9	14	9.8	19	13.3	36	7	1	0	3	45	15	28	19	4.90	0.27	14.3	0.0
	計	4,092	278	6.8	202	72.7	30	10.8	46	16.5	43	23	9	4	3	102	37	56	31	8.27	0.56	39.1	17.4
個別	男	2,700	332	12.3	236	71.1	48	14.5	48	14.5	44	17	9	3	4	130	32	84	41	5.12	0.63	52.9	17.6
	女	4,425	361	8.2	240	66.5	60	16.6	61	16.9	78	10	3	2	3	103	33	58	46	2.77	0.23	30.0	20.0
	計	7,125	693	9.7	476	68.7	108	15.6	109	15.7	122	27	12	5	7	233	65	142	87	3.90	0.38	44.4	18.5
合計	男	4,238	467	11.0	328	70.2	64	13.7	75	16.1	51	33	17	7	4	187	54	112	53	7.07	0.78	51.5	21.2
	女	6,979	504	7.2	350	69.4	74	14.7	80	15.9	114	17	4	2	6	148	48	86	65	3.37	0.24	23.5	11.8
	計	11,217	971	8.7	678	69.8	138	14.2	155	16.0	165	50	21	9	10	335	102	198	118	5.15	0.45	42.0	18.0

【参考】

70歳以上	男	3,088	537	17.4	406	75.6	63	11.7	68	12.7	53	51	23	13	5	227	50	154	70	9.50	1.65	45.1	25.5
	女	3,945	462	11.7	349	75.5	74	16.0	39	8.4	82	27	5	3	8	164	40	105	68	5.84	0.68	18.5	11.1
	計	7,033	999	14.2	755	75.6	137	13.7	107	10.7	135	78	28	16	13	391	90	259	138	7.81	1.11	35.9	20.5

＊70歳以上の受診者数では78人の大腸がんが発見されている。

地域保健・健康増進報告（厚労省）

3）令和4年度大腸がん検診成績（年齢階級別）

年齢階級	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診 あり C	精検受診率 C/B	精検受診 なし D	精検未受診率 D/B	精検受診 未把握 E	精検未把握率 E/B	精検結果別人数 異常なし F	がん G	早期がん H	粘膜内がん I	がん疑い及び未確定 J	腺腫のあった者 K	10mm以上 L	10mm未満 M	がん以外の疾患 N	陽性反応適中度 G/B	がん発見率 G/A	早期がん割合 H/G	粘膜内がん割合 I/G
40-44	2,782	176	6.3	111	63.1	35	19.9	30	17.0	47	2	0	0	0	30	11	14	32	1.14	0.07	0.0	0.0
45-49	3,147	202	6.4	136	67.3	32	15.8	34	16.8	53	1	0	0	0	45	5	35	37	0.50	0.03	0.0	0.0
50-54	3,764	236	6.3	165	69.9	36	15.3	35	14.8	48	6	4	1	3	68	14	51	40	2.54	0.16	66.7	16.7
55-59	4,586	294	6.4	206	70.1	43	14.6	45	15.3	75	5	2	0	5	82	21	52	39	1.70	0.11	40.0	0.0
60-64	7,814	533	6.8	393	73.7	77	14.4	63	11.8	106	23	8	3	4	188	31	139	72	4.32	0.29	34.8	13.0
65-69	14,734	1,136	7.7	862	75.9	157	13.8	117	10.3	205	50	28	16	11	432	100	282	164	4.40	0.34	56.0	32.0
合計	36,827	2,577	7.0	1,873	72.7	380	14.7	324	12.6	534	87	42	20	23	845	182	573	384	3.38	0.24	48.3	23.0

【参考】

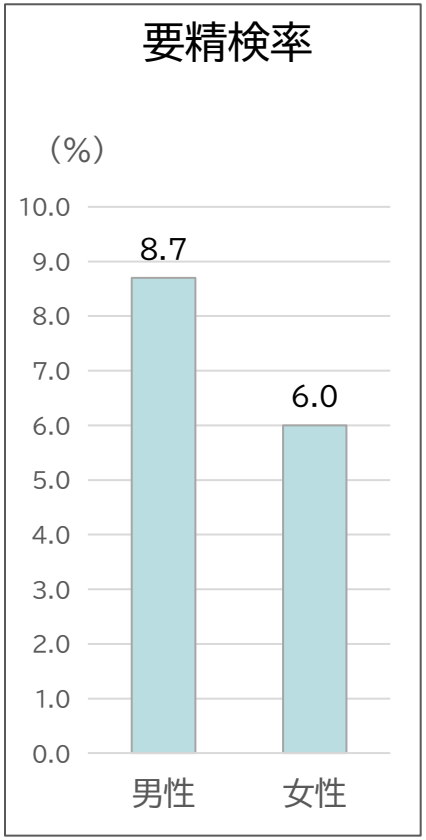
70歳以上	40,381	4,109	10.2	3,035	73.9	663	16.1	411	10.0	681	166	65	41	31	1,547	255	1,127	610	4.04	0.41	39.2	24.7

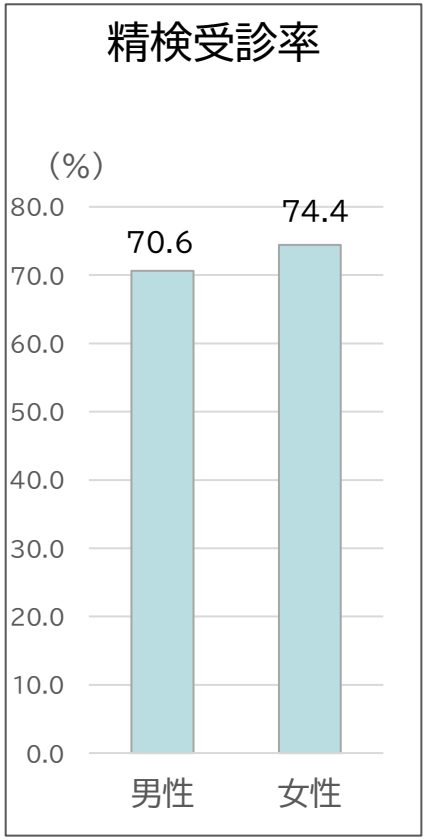
＊70歳以上の受診者数では166人の大腸がんが発見されている。

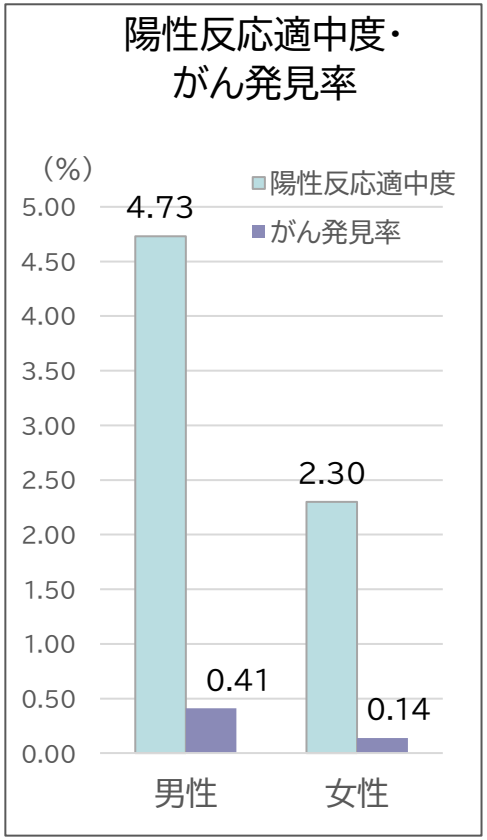
地域保健・健康増進報告（厚労省）

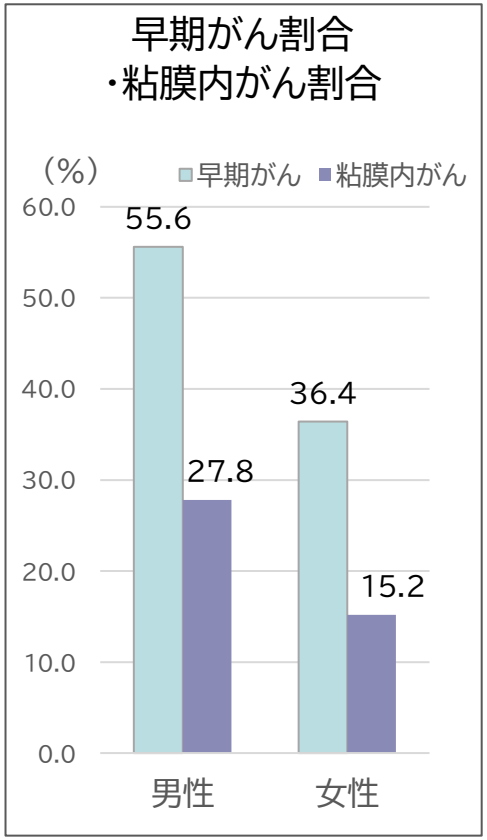
4）令和4年度プロセス指標の男女別の比較

- 要精検率は、女性より男性が高かった。
  精検受診率は、男性より女性がやや高かった。
  陽性反応適中度・がん発見率は、いずれも女性より男性が高かった。
  早期がん・粘膜内がん割合も、女性より男性が高かった。







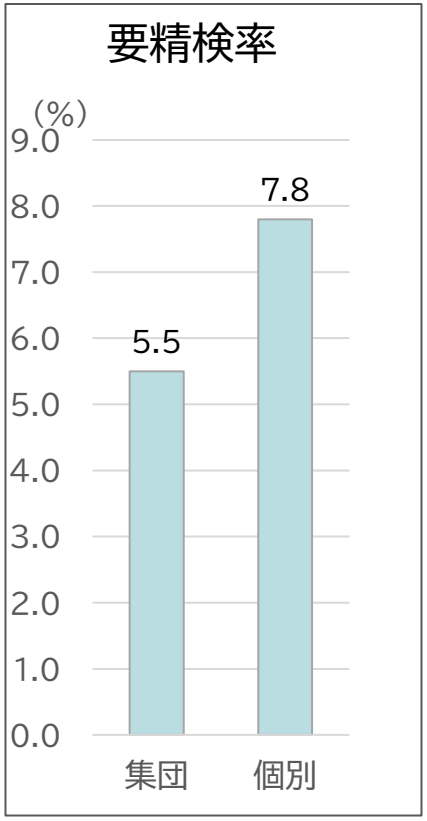


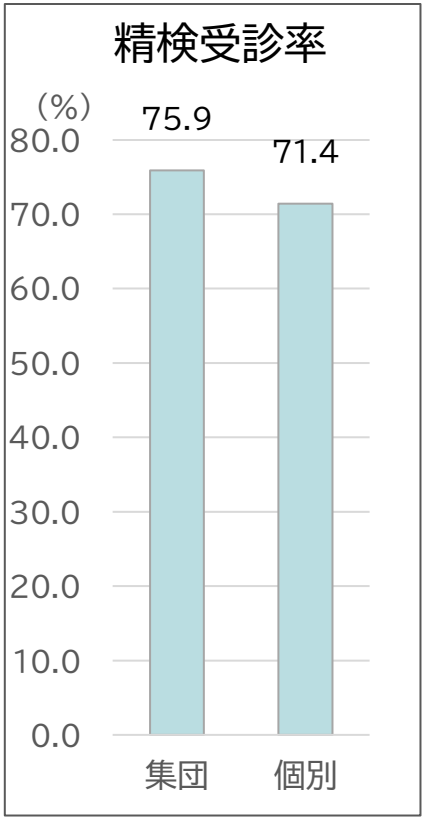
5）令和4年度プロセス指標の検診形態別（集団・個別）の比較

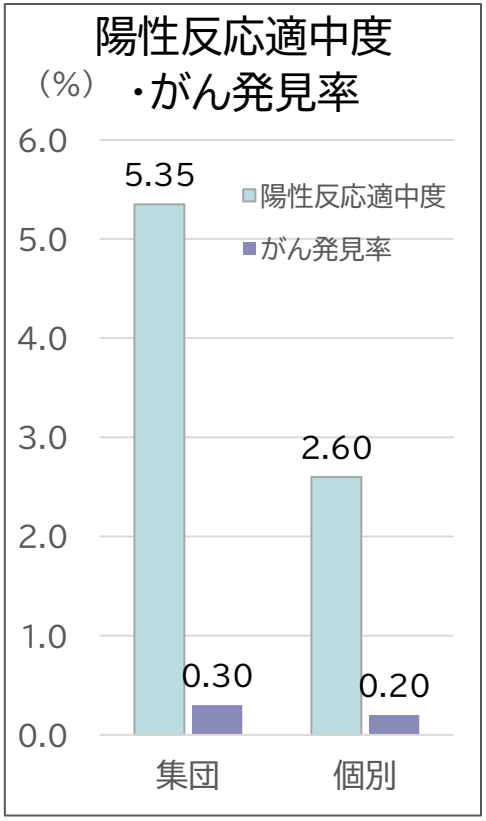
- 要精検率は、集団より個別が高かった。

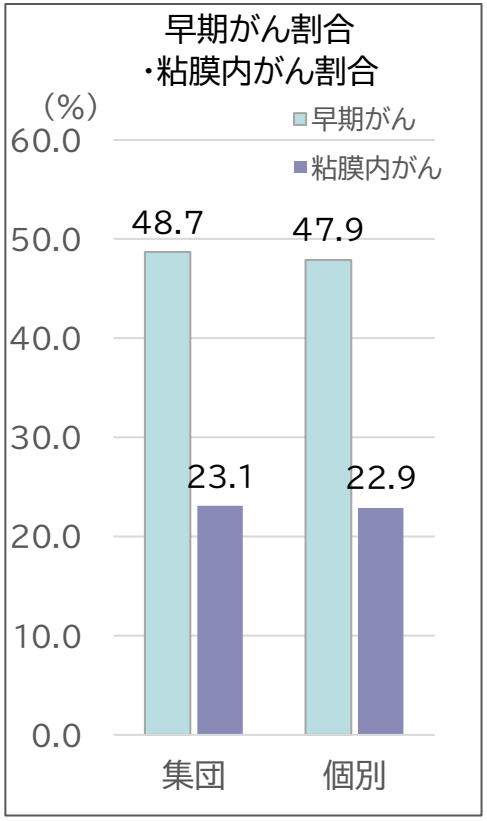
  精検受診率は、個別より集団がやや高かった。

  陽性反応適中度は、個別より集団が高かった。





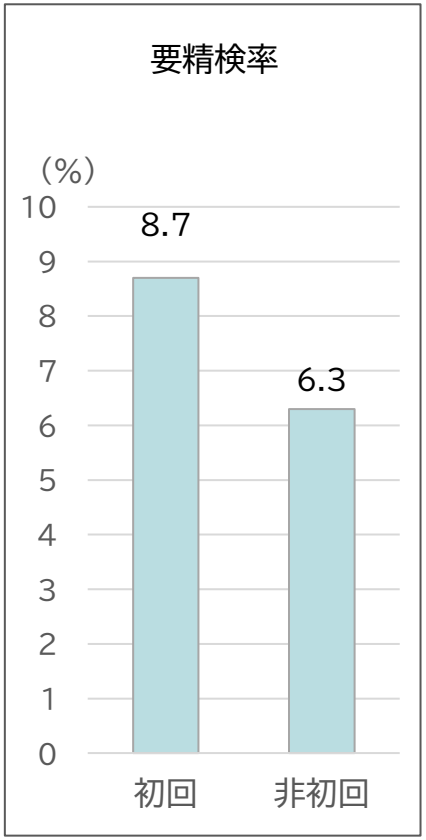


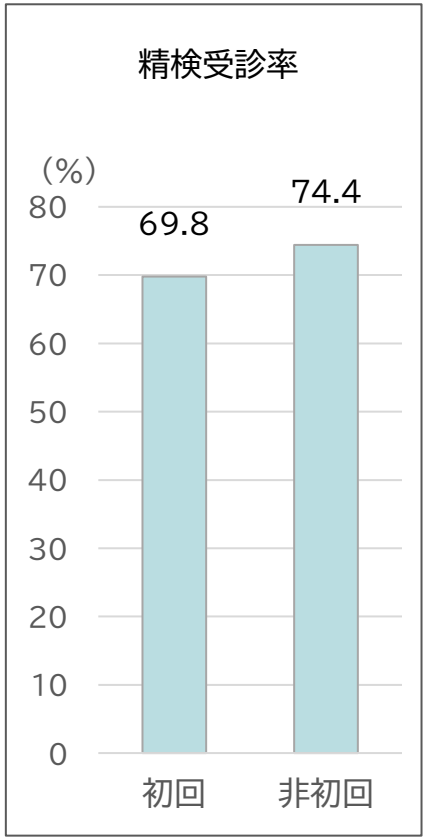


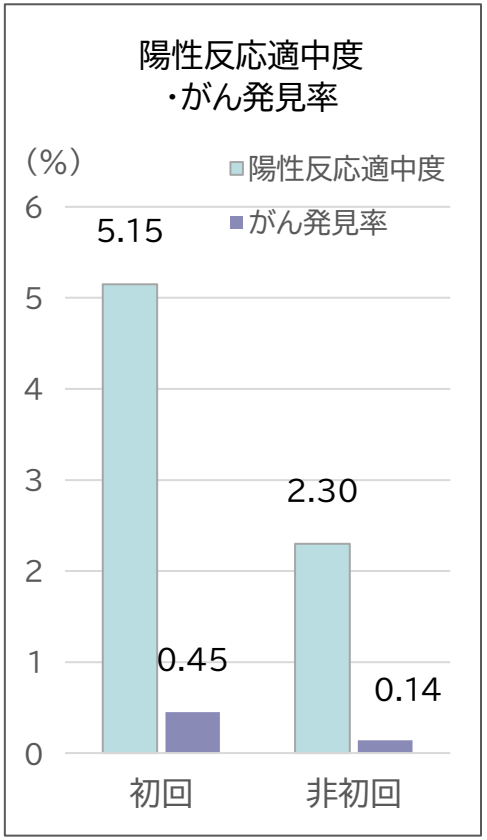
6）令和4年度プロセス指標の受診歴別の比較

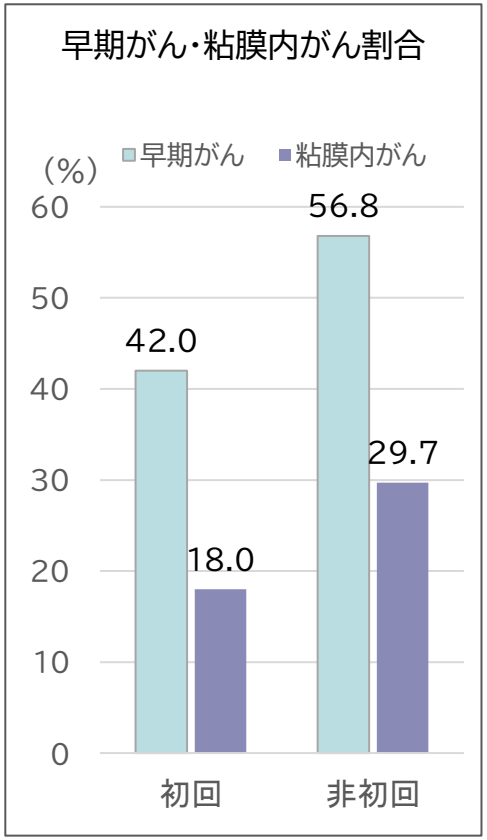
初回受診者：過去3年間（R1・R2・R3年度）に受診歴のない者

- 要精検率は、非初回より初回が高かった。
  精検受診率は、初回より非初回が高かった。
  陽性反応適中度・がん発見率は、非初回より初回が高かった。
  発見がんにおける早期がん割合・粘膜内がん割合は、初回より非初回が高かった。





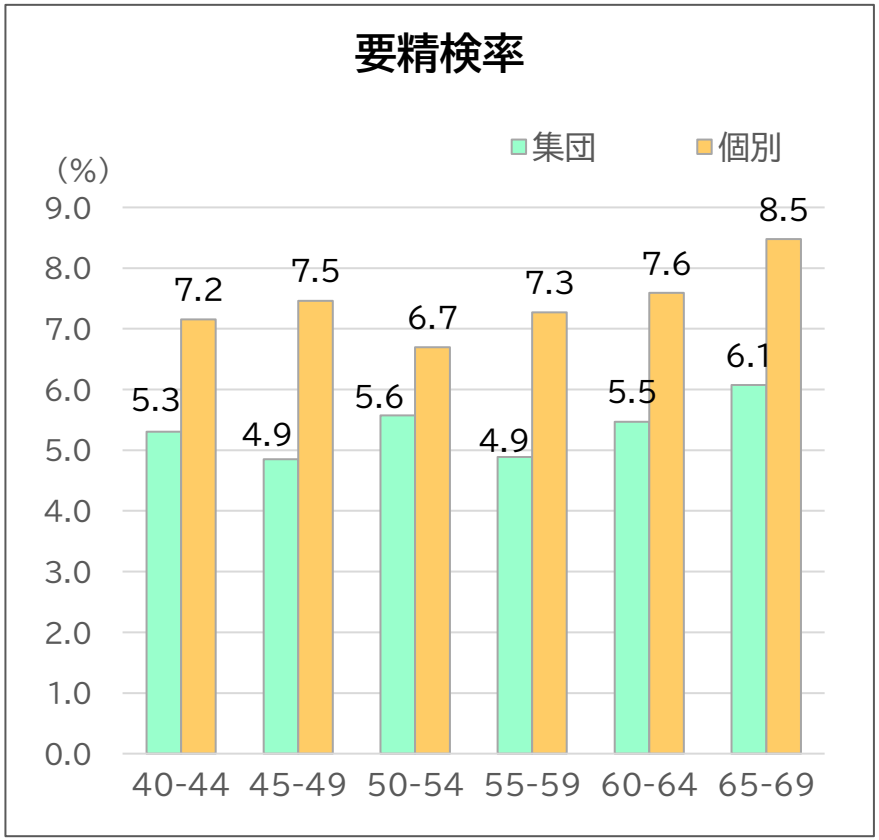


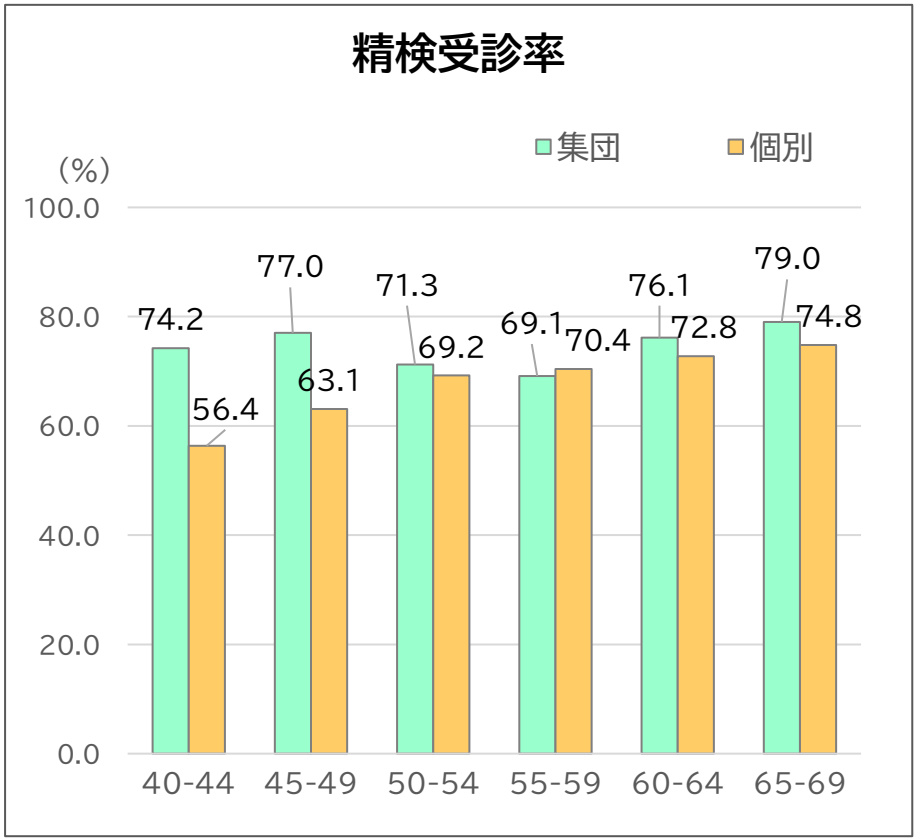


7）令和4年度年齢階級別 の比較

- 要精検率は、どの年代でも個別検診のほうが高かった。

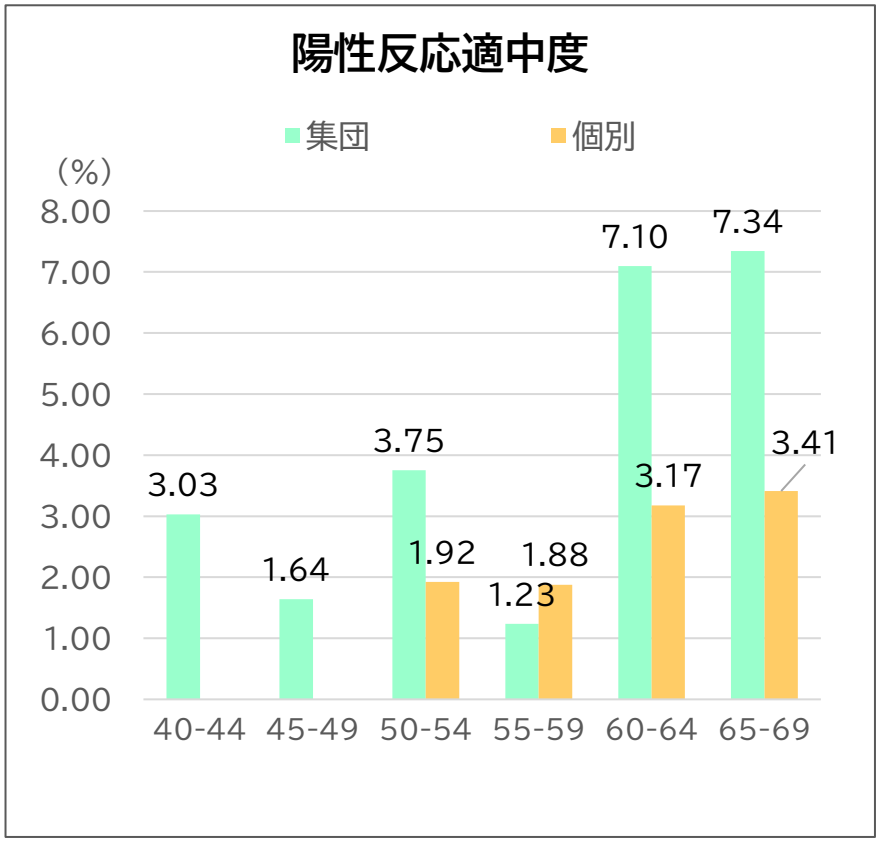
精検受診率はどの年代も低く、集団では50歳代が他の年代に比べてやや低く、
個別では若い年代ほど低かった。

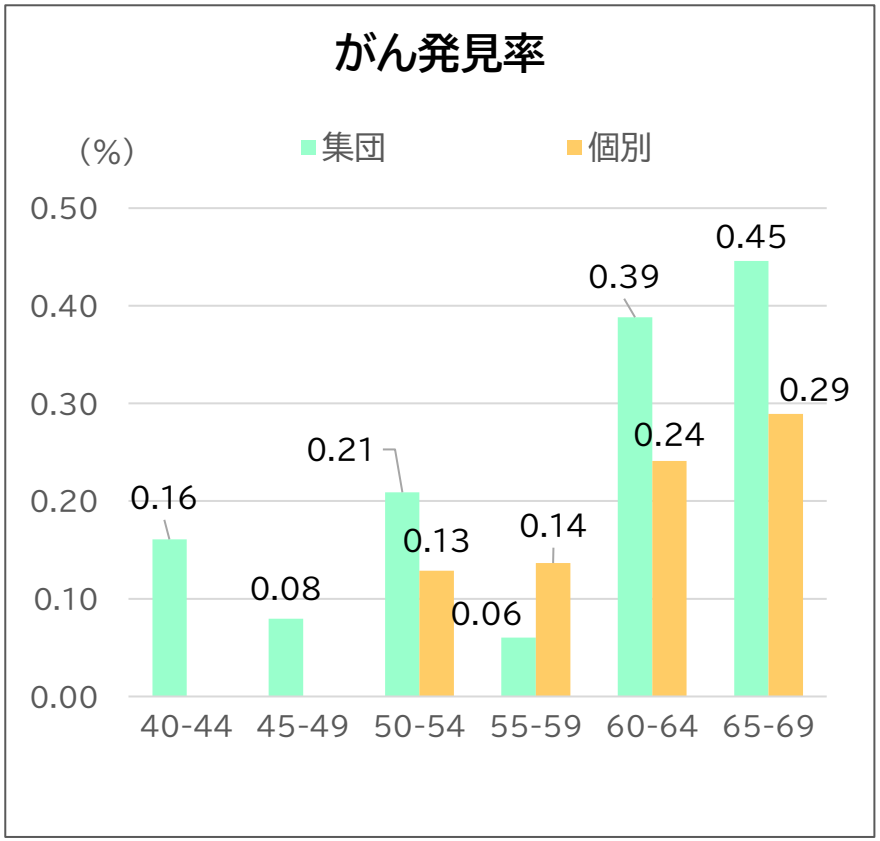




地域保健・健康増進報告（厚労省）

集団健診も個別検診も、年齢階級が上がるほど高くなる傾向があった。





地域保健・健康増進報告(厚労省)

4.国の示す基準値

平成20年に設定
令和5年6月(改訂)により新基準値へ変更

	胃がん（エックス線）		大腸がん	肺がん（1年間隔）		乳がん（2年間隔）		子宮頸がん		
	2年間隔	1年間隔			検診以外の受診を考慮		連続受診を考慮			
対象年齢	50-69歳		40-69歳	40-69歳		40-69歳		20-69歳	20-39歳	40-69歳
算出に用いた感度*	60%以上		60%以上	50%以上		40歳代：60%以上 50歳代：70%以上 60歳以上：80%以上		65%以上		
要精検率	7.1%以下	7.0%以下	6.2%以下	2.0%以下	2.0%以下	6.8%以下	6.8%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下
現在の許容値	11.0%以下		7.0%以下	3.0%以下		11.0%以下		1.4%以下		
精検受診率	90%以上									
がん発見率*	0.13%以上	0.08%以上	0.16%以上	0.06%以上	0.03%以上	0.38%以上	0.29%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上
現在の許容値	0.11%以上		0.13%以上	0.03%以上		0.23%以上		0.05%以上		
陽性反応適中度*	1.9%以上	1.1%以上	2.6%以上	3.0%以上	1.6%以上	5.5%以上	4.3%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上
現在の許容値	1.0%以上		1.9%以上	1.3%以上		2.5%以上		4.0%以上		
非初回受診者の2年連続受診者割合**						30%		40%		

大腸がんの指標

*子宮頸がんはCIN3以上に対する値　　**国民生活基礎調査から算出したおおよその現状の値

5.精度管理(プロセス指標)の意味と解釈

1) 令和5年度　市町別受診率

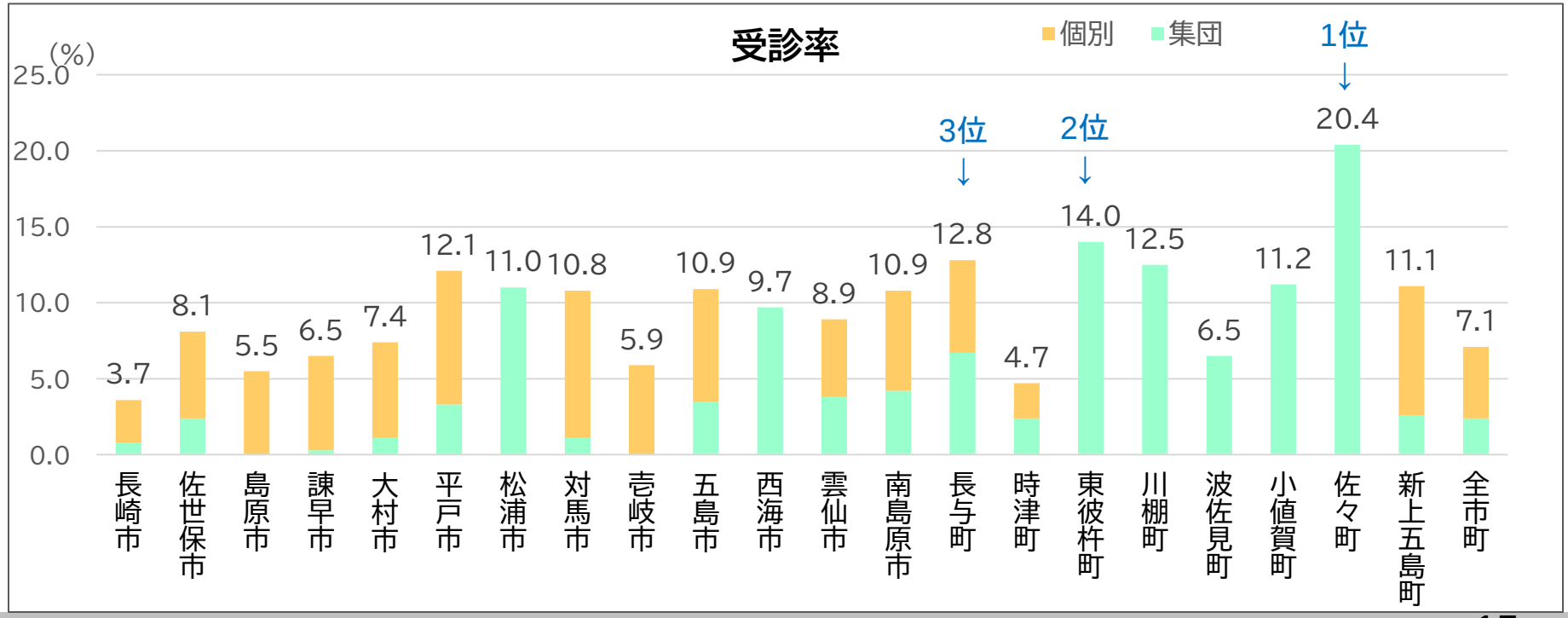
●受診者数／対象者数

●目的:がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合。受診率は高いことが望ましい。

●低い場合に考えられる原因
受診勧奨が不十分

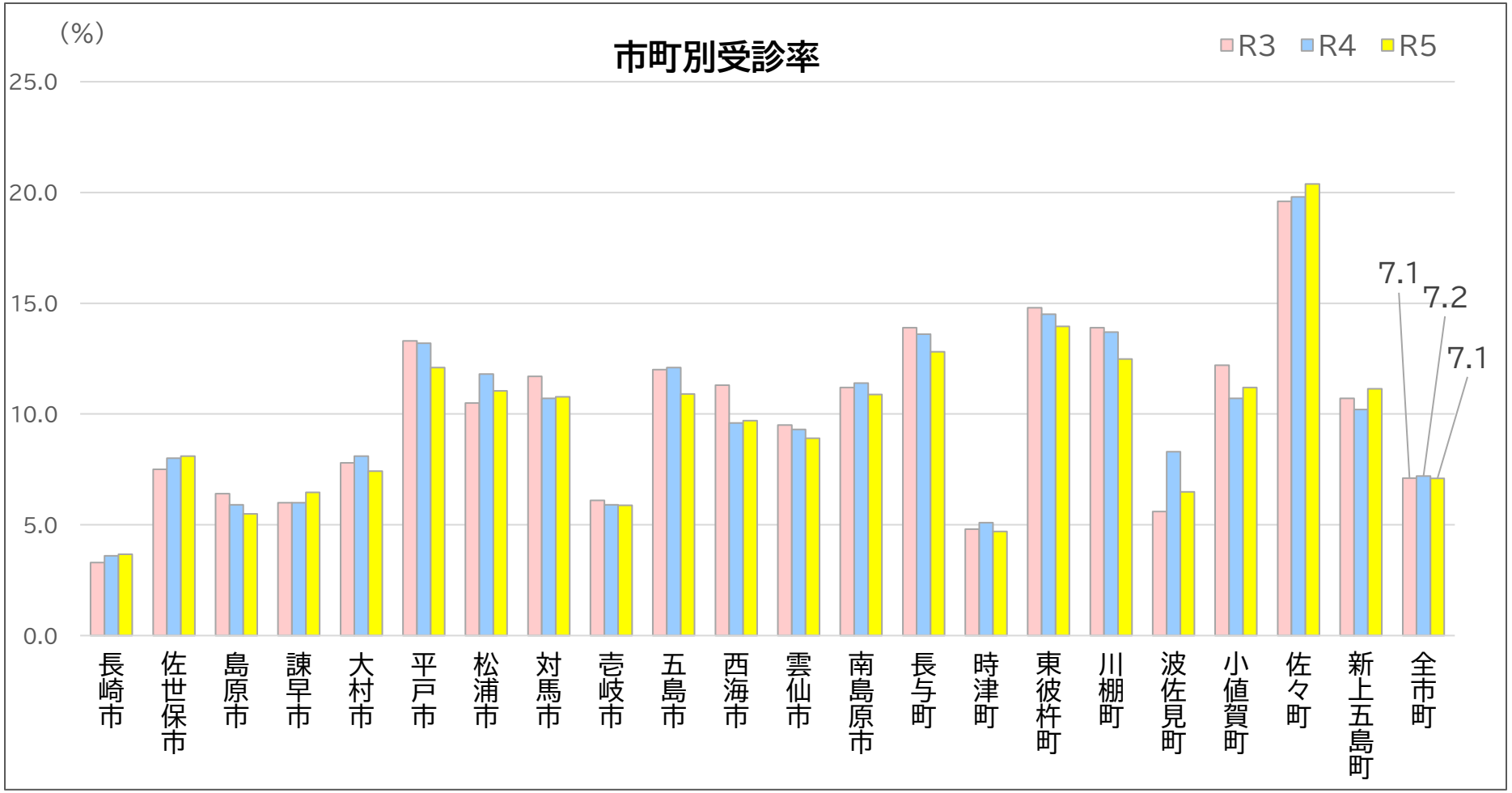
市町が地域のがん検診として実施した分のみ計上。
職域における受診者数は含まれていないことから、単純に比較することはできない。

・市町は全体的に低く、最も高い市町で20.4%、最も低い市町で3.7%であった。
県全体では、7.1%であった。



2）年度別市町別受診率

●R5が前年度より増加している市町：長崎市・佐世保市・諫早市・対馬市・西海市・小値賀町・佐々町・新上五島町
●3年連続増加している市町：長崎市・佐世保市・佐々町
●3年連続減少している市町：島原市・平戸市・壱岐市・雲仙市・長与町・東彼杵町・川棚町



3）令和4年度要精検率

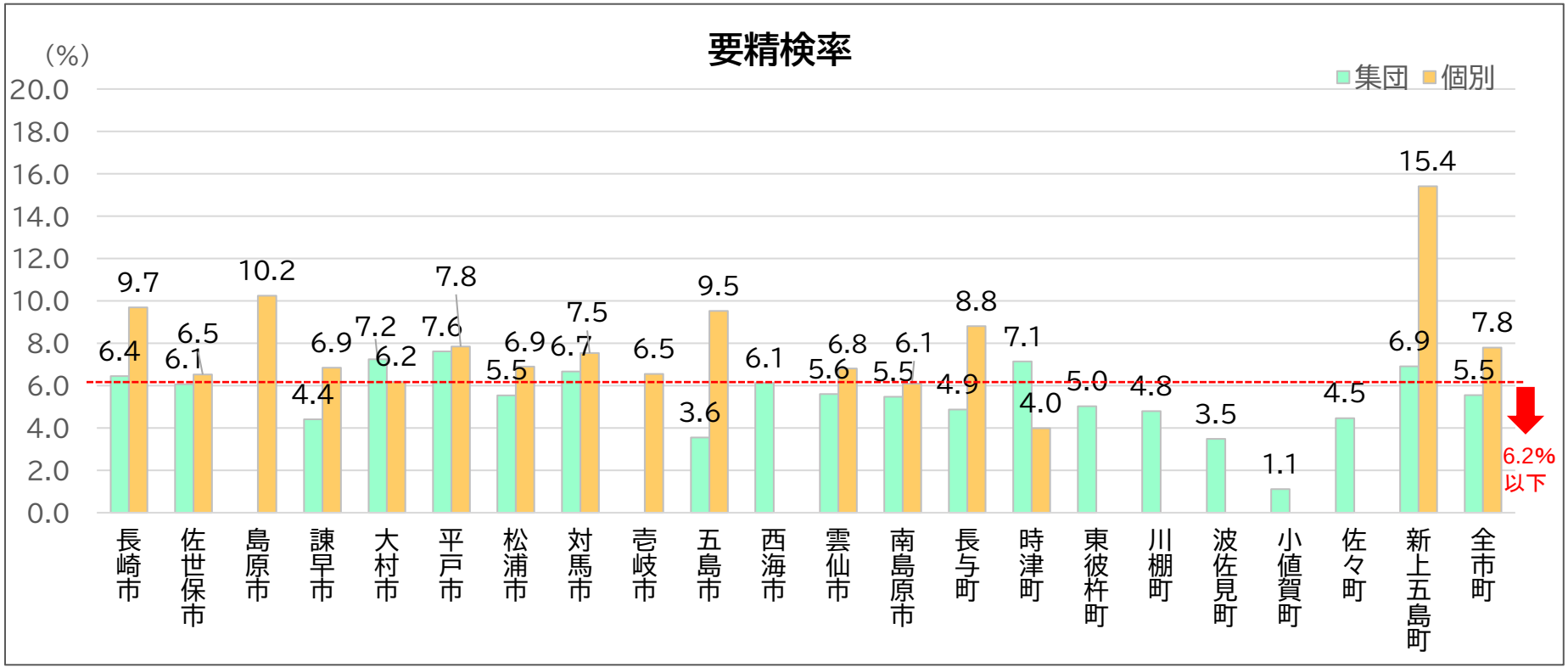
●要精検者数／検診受診者数
●目的:精密検査の対象者が適切にしぼられているか

●基準値:　6.2%以下〔40-69歳〕

●高い場合考えられる原因
要精検者の計上は適切か。
有症状者が、がん検診を受診していないか。

・検診形態でばらつきがあり、個別が高い傾向にある。

・県全体として、集団は基準値を満たしているが、個別は基準値を満たしていない。



4）令和4年度精検受診率

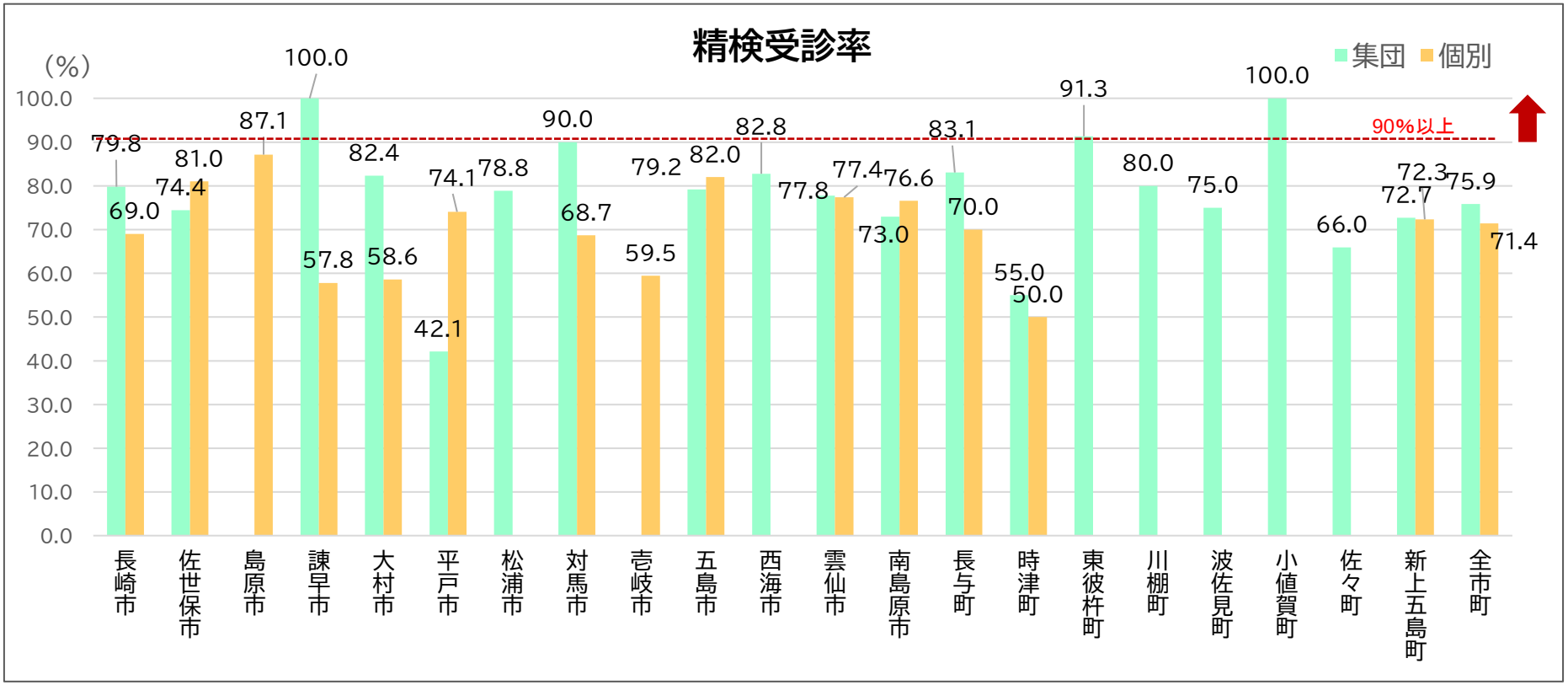
●精検受診者数／要精検者数

●目的：要精検者が精密検査を受診したか
高いほど良い。（精検受診率が100%近くなければ、発見率を正しく評価できない）

●基準値：90%以上〔40-69歳〕

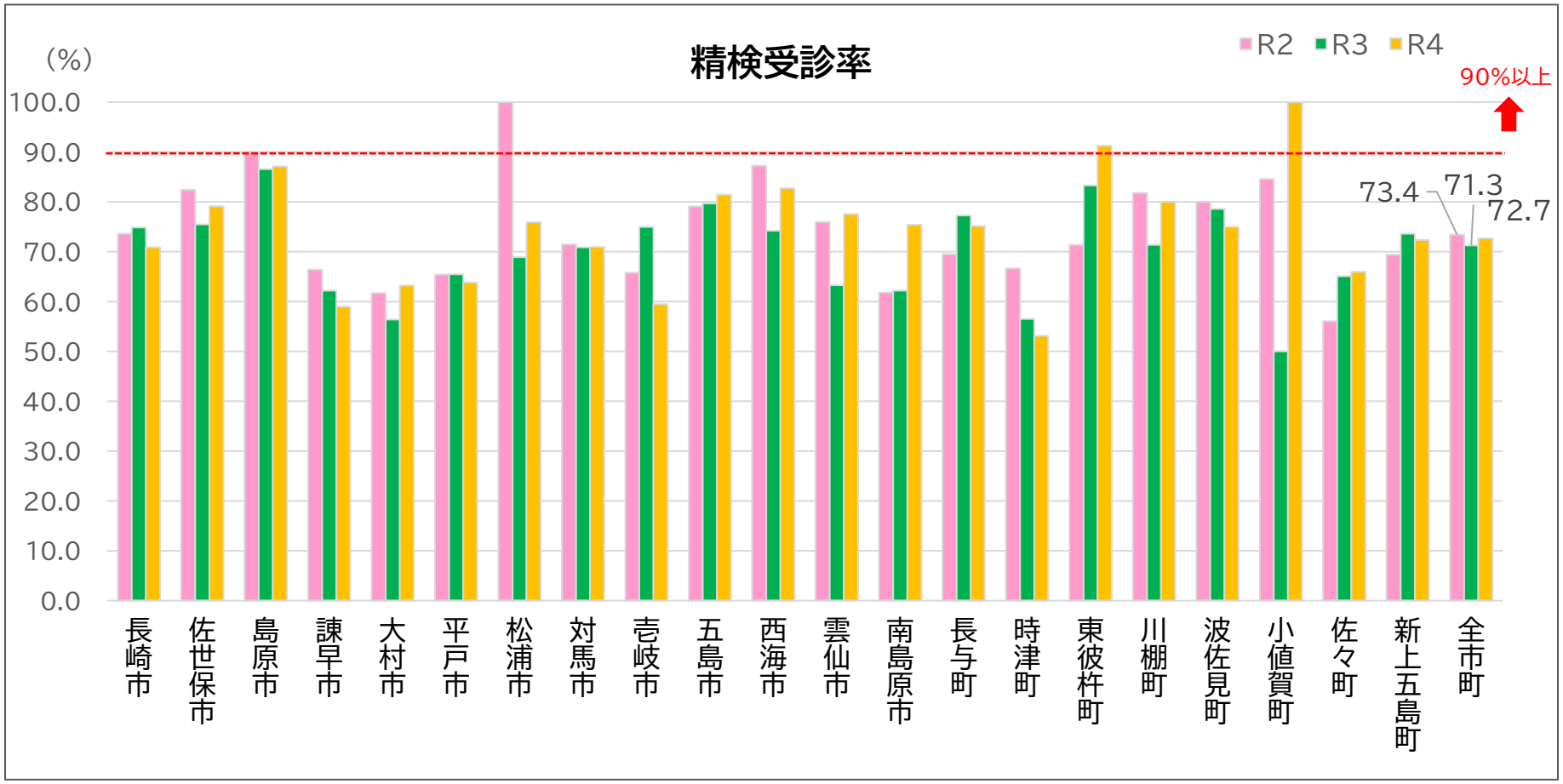
●低い場合に考えられる原因
精検の受診勧奨が不十分。
精検受診の有無を市町が確実に把握できる体制が不十分。

・ほとんどの市町が基準値を満たしていないが、集団検診で4市町が基準値を満たしている。県全体では、集団・個別とも基準値を満たしていない。



5）年度別精検受診率

●R4年度90%以上の市町：東彼杵町・小値賀町
●3年連続増加している市町：五島市・南島原市・東彼杵町・佐々町
●3年連続減少している市町：諫早市・時津町・波佐見町



6）令和4年度陽性反応適中度

●がんであった方の数／要精検者数

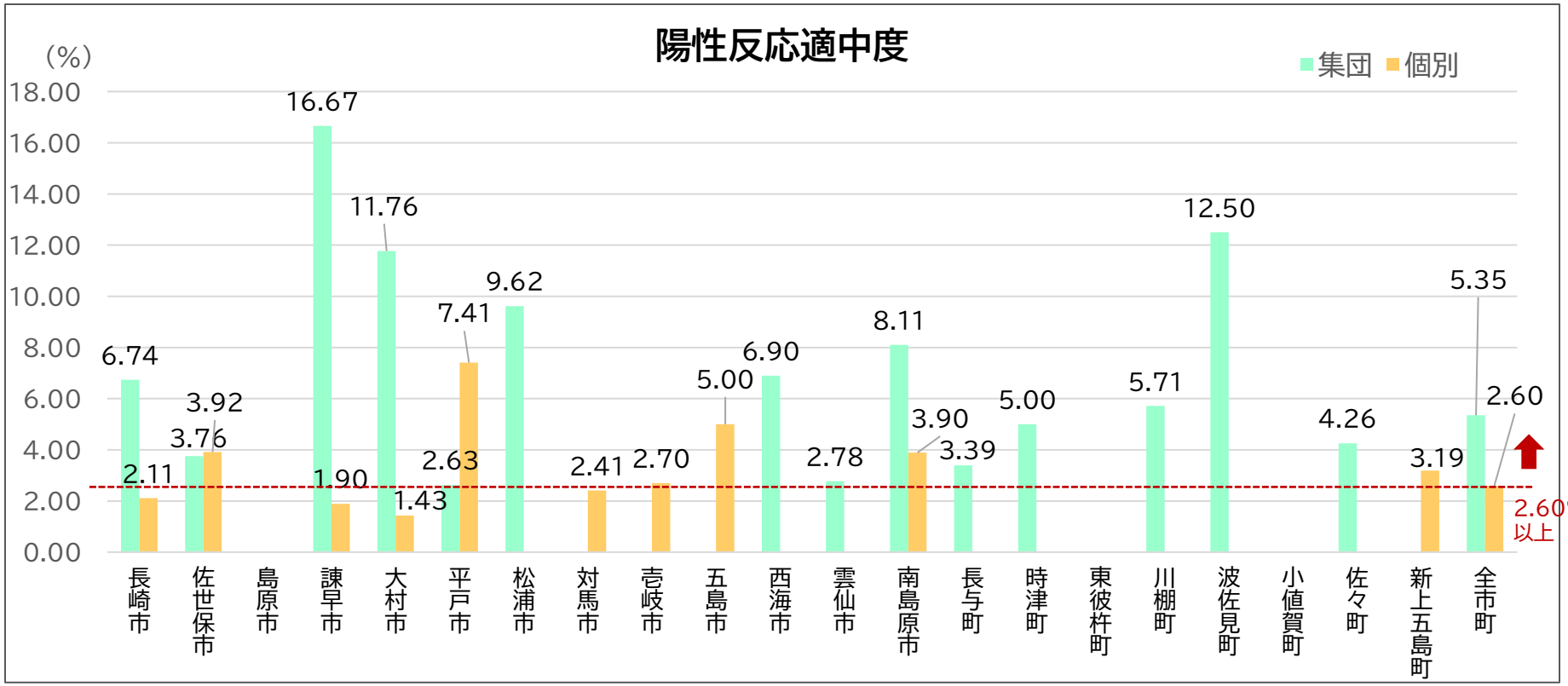
●目的：検診で効率よくがんを発見されたかを測る

●基準値： 2.60 %以上〔40-69歳〕

・人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは、困難である。

・県全体では、集団・個別ともに基準値を満たしている。

・大腸がんは、70歳以上での発見数が多く、以下のグラフには反映されていない大腸がんが多くある。



7）令和4年度がん発見率

●がんであった方の数／検診受診者数

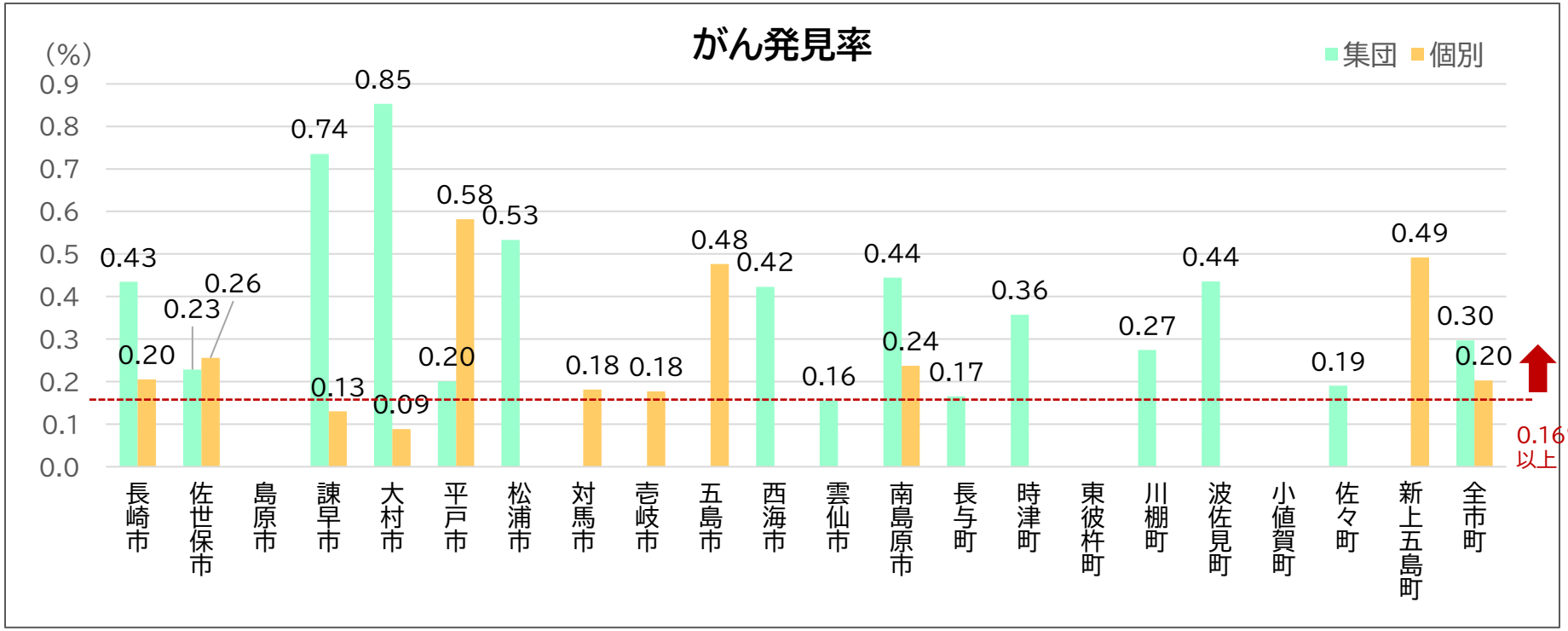
●目的：その検診システムにおいて、適切な頻度でがんを発見できたか

●基準値：　0.16%以上〔40-69歳〕

・人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは、困難である。

・市町や検診形態によりばらつきがあった。県全体では、集団・個別共に、基準値を満たしている。

・大腸がんは、70歳以上での発見数が多く、以下のグラフには反映されていない大腸がんが多くある。



8）令和4年度　偶発症

長崎県では偶発症は確認されていません。

・検診時または検診後

区分	性別	全国		長崎県	
		偶発症確認	死亡数（再掲）	偶発症確認	死亡数（再掲）
集団	男	－	－	－	－
	女	－	－	－	－
	合計	－	－	－	－
個別	男	－	－	－	－
	女	－	－	－	－
	合計	－	－	－	－
合計	男	－	－	－	－
	女	－	－	－	－
	合計	－	－	－	－

・精密検査時または精密検査後

区分	性別	全国		長崎県	
		偶発症確認	死亡数（再掲）	偶発症確認	死亡数（再掲）
集団	男	17	…	－	－
	女	8	…	－	－
	合計	25	…	－	－
個別	男	16	…	－	－
	女	15	…	－	－
	合計	31	…	－	－
合計	男	33	…	－	－
	女	23	…	－	－
	合計	56	…	－	－

6.まとめ

受診率、精検受診率について

受診率で目標値を満たしている市町はなかった。県全体として7.1%であった。

精検受診率は、ほとんどの市町が基準値を満たしていないが、集団検診で4市町が基準値を満たしている。精検受診率を向上させるためには、精密検査の受診勧奨を行うことに加えて、精検医療機関からの情報を、市町が適切に把握できるよう体制を整えることが必要である。

要精検率について

各市町、検診形態（集団、個別）によりばらつきがあり、個別検診で高い傾向がみられた。 県全体としては、集団検診は基準値を満たしていたが、個別検診は基準値を満たしていなかった。

がん発見率、陽性反応適中度について

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難である。
陽性反応適中度・がん発見率ともに、県全体として基準値を満たしていた。
また、70歳以上での発見数が多く、40～69歳の集計には反映されていない大腸がんが多くある。